

遊びは仕事、仕事は遊び
遊びは仕事、仕事は遊び
仕事は遊び、遊びは仕事
仕事は遊び、遊びは仕事
遊びは遊び、遊びは遊び
遊びは遊び、遊びは遊び

大浦総合研究所

大浦勇三 著

ビジネス梁塵秘抄（七）

目次

はじめに

第一部

〔遊〕

遊びをせんとや生れけん

第二部

〔献〕

仕事をせんとや生れけん

第三部

〔学〕

学びをせんとや生れけん

はじめに

平安時代末期、「梁塵秘抄（りょうじんひしょう）」という歌謡集が編まれました。平安時代末期は、日本の歴史の中でも先が見えない激動の時代でした。編者は後白河法皇で一八〇年前後のものといわれます。書名の「梁塵」は、その歌で梁（はり）の塵（ちり）も動いたという故事からとられました。

多くの歌が七五調四句や八五調四句、さらには五七五七七の調子など、さまざまなバリエーションからなります。

通常、「梁塵秘抄」といえば、

**遊びをせんとや生れけむ、戯れせんとや生れけん、
遊ぶ子供の声きけば、我が身さえこそ動がるれ。**（岩波文庫版）

が有名です。

現在、日本をとり巻く環境は、平安時代末期に負けず劣らずの大変革期にあり、その規模はグローバルな広がりを持っています。グローバル規模の動きになればなるほど、あらためて日本の文化風土、日本人の特性が一段と問われることとなります。

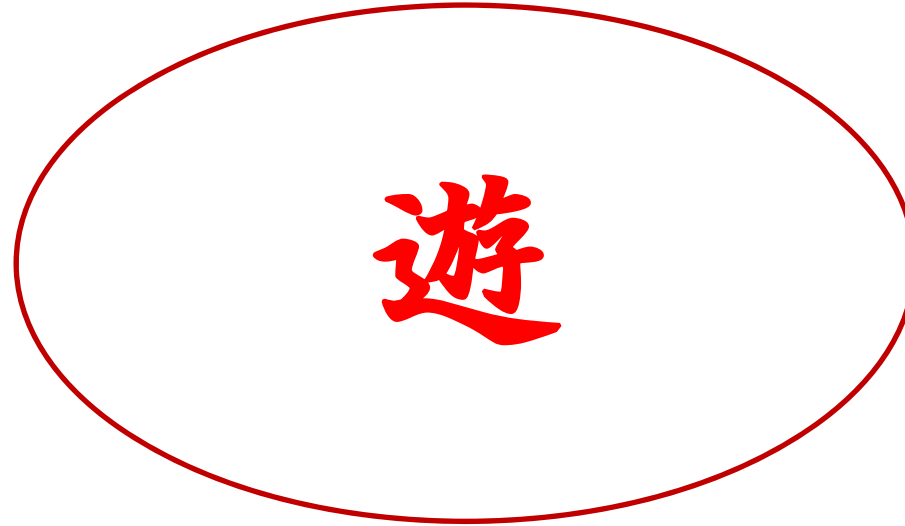
この二〇年、日本はなかなか前に進めず、ある意味で後退を余儀なくされましたが、「後ろ向きで前に進む」ことには限界があります。前へ進もうとする以上、きちんと正面を向く必要があります。平安時代の日本人は、乱世の中で的人生を「遊び」「戯れ」と肚をくくり、難題や障害と真正面から向き合い、それを乗り越え生き抜いてきました。

二二世紀の我々も、この文化風土と特性をもう一度再認識し、覚悟を決めて思いを深め、生活と仕事に希望と喜びを見出していききたいものです。

本書は、仕事を通じて少しずつ抽斗（ひきだし）にため込んできたものを、真つ平御免の何でもありの形式で纏めたものです。しかし、文学的素養などの力不足はいかんともし難く、お手本の「梁塵秘抄」とは比べることが憚れるレベルの内容になってしまいました。ただ、「遊（遊び）」「献（仕事）」「学（学び）」に対する思いの深さだけは忘れず、無我夢中でまとめたことだけはお汲みとりいただき、なにとぞご寛恕いただければ幸いです。

東京・芝にて

大浦 勇三



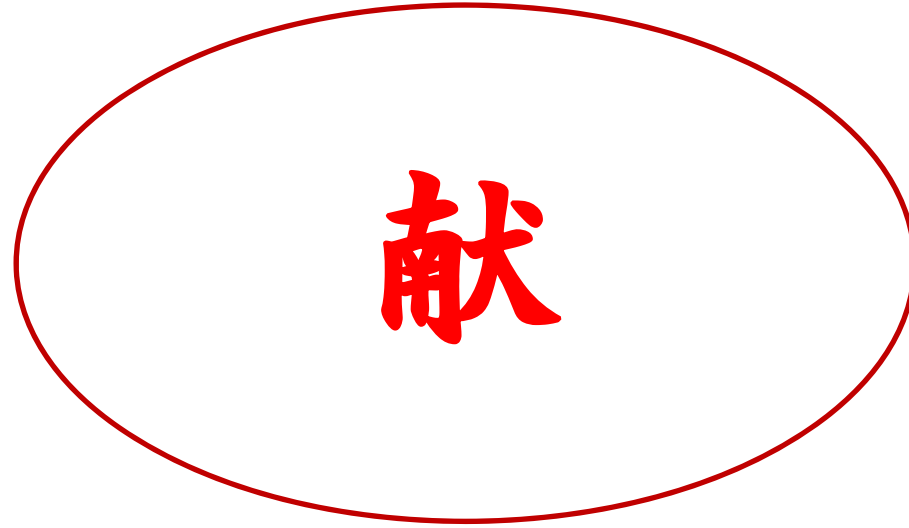
遊びをせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粋

○近代化とは風景が殺風景になること 抒情は心の中に育む
これでもういいかなと思う時はまだ目一杯やっていない時
整理・整頓の地味な作業を大事にしている組織が一番強い
下手な師匠に十年より上手な師匠に一年習う、と吾妻徳穂

○足るを知ること、何でもできるがやらない
自分の時間を偽りなく正直に生きているか
侍・武士の魂 米国流ではマーヴェリック
お金を持ちつつ貧しく生きたい、とピカソ

○個を前面に出そうとしないし出せない仕組み どう対応すべきか分からず怯える
規則ばかり意識しないで本能を目覚めさせて闘う 人生の岐路は困難な方が正解
他人を意識しすぎるからすぐブレーキを踏みたがる 目は魂の窓で誤魔化せない
一日練習を怠ると自分、二日だと先生、三日だと観客にわかる、と女優栗原小巻



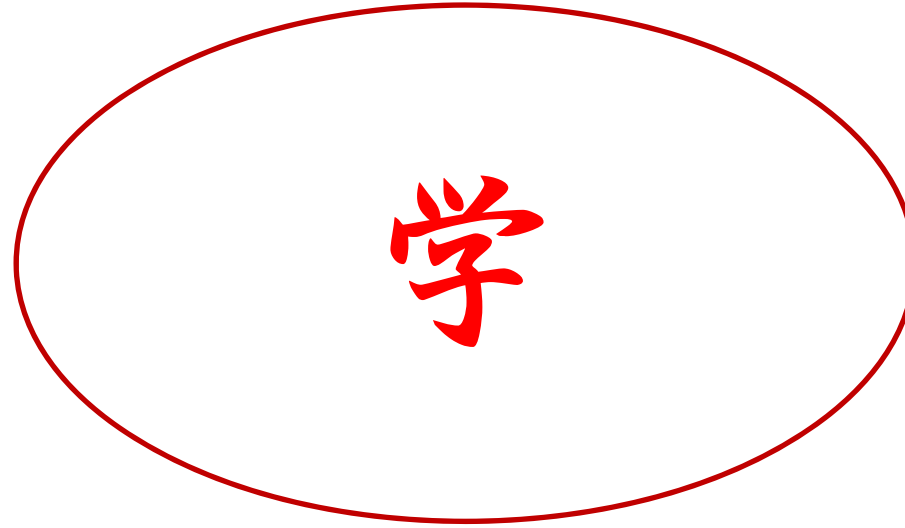
仕事をせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粹

○ 目標と技術がバラバラ 技術志向とは戦略が技術を生み出すこと
空中ブランコの一メートル下に安全ネットがある開発環境の緩み
いいモノを創る 日々鍛錬しながら裸になる 満足感は脇に置く
遠慮なんかせずにくたばるまで何でもやれ、とロマン・ローラン

○ 持続する気持ちさえ持ち続けられ、色んな可能性が生れてくる
死にたくなる原因 実は経済不況というより生きる意味の喪失
野球に不要な無駄な筋肉もある 鍛錬を間違えると身体を壊す
安定は幻想 高レベル維持には変化のみ、とカルロス・ゴーン

○ この世の全てに色がある 宇宙を研究することで初めて地球がわかる
我々の目は時々曇る しばしば反面しか観ない、見たいものだけ観る
敵に感情移入 相手の判断や行動の裏を知る、彼らの身になり考える
写真から象徴 一度昇った梯子を降りる勇氣を持って、と画家速水御舟



学びをせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粋

○文字の書きぶりは、書き手や国家の振舞いをも浮き彫りにするという
粛々とした時間の流れ、薄紙の積み重ね 言葉のパワーと抽象化の力
他人の生き方を栄養にしながら、狭い範疇内で安易に学んでいく怖さ
勉強する時間と世間の理不尽な壁との間の緊張感、と作家多和田葉子

○永久革命 固定観念を常に打破し続けることで生き残りをはかる
未来へ向けて鼓舞しながら生きること 一通りできてやつと下手
善意や道徳観に頼る仕組みは限界 いい人生だったと思えば勝ち
自分がどこへゆくのかわからない時が一番向上する、とニーチェ

○うまくいかない、また失敗というのは 成功に向かう一里塚
芭蕉と良寛 二〇代は満足できる歌を作れなかつたとも聞く
井戸水をすべて汲みつくす その後でやつと本物が出てくる
鍛えるべきは基本プレーと基礎体力 ゲームの過半を占める

大浦勇三（おおうら ゆうぞう）

oura@office.email.ne.jp

大浦総合研究所 代表

<http://www.mm.jp.or.jp/oura/>

早稲田大学卒業、筑波大学大学院修了。

米国大手コンサルティング会社アーサー・D・リトル 主席コンサルタントを経て現職。主担当領域は、経営改革、経営戦略&情報通信技術（ICT）戦略策定、業務改革／組織改革、研究開発／商品開発マネジメント、ナレッジマネジメント&イノベーションマネジメント、人材マネジメント、コーチング&メンタリング、プロジェクト&プログラムマネジメント、ベンチャービジネス支援等のコンサルティング。

主な著書には、

- ・「イノベーション・ノート」（PHP研究所）
 - ・「IT技術者キャリアアップのためのメンタリング技法」（ソフトリサーチセンター）
 - ・「よいコンサルタンの見分け方、かかり方」（清語舎）
 - ・「ナレッジマネジメントが見る見るわかる」（サンマーク出版）
 - ・「図解 ナレッジ・カンパニー」（東洋経済新報社） ほか
- その他新聞、雑誌、ウェブサイトへの寄稿多数

「ビジネス梁塵秘抄（七）」（**抜粋**）

著者 大浦勇三

二〇一三年一月 初版 第一刷発行

大浦総合研究所

〒一〇八・〇〇一四 東京都港区芝四丁目一六・一・二〇〇五

◎大浦総合研究所

大浦総合研究所の許可なく複製・改変などを行うことはできません。